

いばらき教員応援団

For the future of Ibaraki children

No.11

令和3年度の事業内容をご報告いたします



グループ別研修会 左から上甲 晃 氏、白駒 妃登美 氏、木下 晴弘 氏

令和3年度事業概要

目的

日本を代表する一流講師による講演会を開催し、講話を通して、総合的な教師力の向上に資することを目的とする。

対象者

市町村立小・中学校等、県立高等学校等、県立特別支援学校
・新任校長・副校長
・新任教頭
・新任教務主任

研修会

○グループ別研修会
(オンデマンドでの動画視聴)
5月19日(水)
6月8日(火)
6月23日(水)

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止いたしました。

ごあいさつ



「日本の世の中全体が、あらゆる分野で、非常に悪くなってきている。このままでは日本の将来は大変なことになる。

それには、学校の先生方皆様に高い志のもと高い理想のもと大いに奮い立っていただき、次の時代を担う青少年を子供達を正しく育成させていただき他に道はない」との思いで「いばらき教員応援団」を発足させ、多くの皆様のご支援ご協力に依り、11年目の事業を無事終了することができました。

研修に参加されました多数の先生方が、講演内容に感動され、その気付きからこれからの教育活動に生かされるものと思っております。事業を運営していくなかで、責任者として確かな手応えを感じ、今後も、県民運動の一環として茨城の教員を応援し、そのことによって茨城の教育力の向上を目指してまいります。

ここに広く、県民の皆様の、この事業へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

名誉理事長
高野 英一



For the future of Ibaraki children



新任校長・副校長



5月19日(水)
[参加者 188名]

演題

人を導く責任

●講師

上甲 晃氏

松下政経塾では初代塾頭を務めた経験をもつ。「志の高い日本」は「志の高い日本人」によってこそ実現するとの思いに立ち、志ネットワーク活動を展開している。また、活動の一環として、「青年塾」を創設し、青年の人間性向上の研修に取り組んでいる。著書『志を継ぐ』『志のみ持参』（致知出版社）、『志高く生きる』（致知出版社）、『青年塾の合い言葉1～5巻』他多数。

新任教頭



6月8日(火)
[参加者 225名]

演題

志高き日本人の物語

●講師

白駒 妃登美氏

大病を患った経験から、命を紡ぐことの大切さを実感し、結婚コンサルタントとして活動する傍ら、歴史講座を始める。コロナ以前、年間の講演依頼は200回に及んだ。コロナ以後は、オンラインの『和ごころ大学』、および『天命追求型・実践経営者会議』を主宰。250名を超える塾生に、歴史が教えてくれる、逆境を力に変える生き方を伝え続けている。著書『人生に悩んだら「日本史」に聞こう』（共著 祥伝社）、『感動する!日本史』（中経出版）、『ここに残る現代史』（KADOKAWA）他多数。

新任教務主任



6月23日(水)
[参加者 250名]

演題

最高のクラス(組織)を創るために
知っておきたい
5つのポイント

●講師

木下 晴弘氏

「授業は心」をモットーに、学力だけではなく人間力も伸ばす指導は、生徒、保護者から絶大な支持を得た。以後10年間にわたり、講師および広報・渉外・講師研修など様々な業務を経験。現在、株式会社アビリティトレーニングの代表取締役として、全国教育機関で、教員・保護者・生徒向けのセミナーを実施している。そして、そのセミナーは様々な分野の各企業からも注目され、いまやセミナー受講者は350,000人を超えている。著書『ココロでわかると必ず人は伸びる』（総合法令出版）、『できる子にする「賢母の力」』（PHP研究所）、『涙の数だけ大きくなる!』（フォレスト出版）他多数。

受講者の感想より

「備えるべきことを備える。やるべきことをやる」今まさにコロナ禍の中で行われている東京オリンピックを重ねました。志さえあれば、すべての困難はチャンスとなる。コロナ対策、働き方改革、学校教育における課題は山積していますが、目の前のことに全力で取り組み、ぶれずに生きた人間教育に日々取り組みます。
(小学校 校長)

あることが当たり前になってしまう心の慣れや量に関わらず得たことへの感動や感謝の薄れ、人間の弱さを再確認した。喜び、感動は、人間性を高める原点であると感じた。学校経営において、生徒一人一人に、学ぶ喜び、分かった感動をより多く味わわせたいと感じた。ご講義いただいた「志があれば、必ず道は開かれる」の言葉を胸に、現状としっかり向き合い、強い信念をもって判断していきたい。
(中学校 校長)

上甲先生の講演の主旨は、管理職として「凡事徹底による人間力の向上」を忘れてはいけない、ということであると感じた。「人間力」はその人の人としての魅力であり、平凡を徹底することで育ってくるものであるということ、それを為すのは「今」この瞬間であるという意味のご発言に深く共感した。まずは自分が「凡事徹底」と「傾聴」を実践していこうと思う。
(高等学校 校長)

「人は自分の長所につまづく」という言葉も印象的であった。自分の長所によって傲慢な気持ちが生まれれば、その長所は短所になる。反対に、自分のハンディキャップはチャンスにもなる。校長という立場だからこそ謙虚な気持ちを忘れず、児童生徒・教職員が人間としての魅力「人間力」を高められるような学校経営を行っていきたい。
(特別支援学校 校長)

受講者の感想より

「自分から命を絶ってしまう子どもたちの存在」の前に、教師としてもっと何かできることはなかったかと自問自答してしまった。私は教育者としての「道」を選んだのだから、日々前進できるように過ごしていきたい。教頭として何ができるか、何をしていかなければならないか考え実践していきたい。
(小学校 教頭)

現代の私たちの精神を育てているのは、過去の日本人たちの志であり教育であった。「共にある」「共に働く」「共に考える」という精神を育む教育を通し、自分のためではなく、大切な人を笑顔にするための目標をもたせることだ。今起こっていることは、未来につながっているということだ。教科指導だけではなく、すべての学校教育を通して育てていきたい。
(高等学校 教頭)

歴史上の人物の偉業などの話から、あらためて「教師の志」について深く考えることができた。現在コロナ禍の中、学校では様々な教育活動が制限されている。しかし、「コロナ禍だからできない」と嘆くのではなく、「コロナ禍でもできること」「コロナ禍だからこそ発見できること」が必ずあると信じて、クリエイティブに教育活動を展開していきたい。
(中学校 教頭)

改めて先人たちの想いや生き方に触れ、日々、目の前のことに右往左往している自分を恥じ、教育者としての志を忘れずに、子供たちのために尽力したいと決意を新たにしました。我々教育者は、先人たちの志のバトンを受け継いでいる。そのことを肝に銘じ、高き志を抱き、感謝の気持ちと前向きな発想で、次世代を担う子供たちへの教育に邁進していきたいと思えます。
(特別支援学校 教頭)

受講者の感想より

チームとして個人の役割を認識し役割を果たすこと、それが集団としての成果に直結していることを再確認し、チーム学校を創っていくことの重要性を改めて感じました。「ノーム(規範)」という言葉を知り、リーダーシップをとる人間には肯定的なノームを生み出せる人というお話に感銘を受けました。自らとチームの成長を楽しみ、結果として成果をあげられる集団づくりに寄与していきたいです。
(小学校 教諭)

研修センターを訪れた際、教え子に声をかけられた。「先生が担任してくれて本当に良かった」という、彼からかけられた言葉に私はつい笑顔になった。木下先生の講演を聞き、「成長すれば成功はついてくる」という言葉があったように、自分が成長しようと一生懸命もがいているからこそ、それを見ている生徒たちも一緒に成長してくれているんだと思いました。ありがとうございました。
(高等学校 教諭)

一番心に響いたことは、「自分が源泉」という考え方です。「あらゆる問題、障害の結果はすべて自分自身が創り出しているとしたら」という立場をとって物事を見たとき、どんな事象も障壁も、自分が源泉で起こっていると捉えれば前向きに解決が可能になる。この立場で考えることができれば、必ず自分の行動で結果も変えることができるという視点に気づくことができました。
(中学校 教諭)

組織の成長なくして、個人の成長なし。「愛ある人間関係」と「規律ある文化」が組織を成長させていく。教務主任の役割を果たし、業務を遂行していく上で忘れてはならない大切な羅針盤を得た講演であった。組織としても個人としても、成功や成果を求めがちであったが、これからは成長の結果に成功や成果があると考え、やさしさと厳格さを忘れず組織の成長のために尽力したい。
(特別支援学校 教諭)

いばらき教員応援団へのメッセージ

講演を通して、後ろをふり返って愚痴を言うのではなく、子供たちの未来のために前を向いて精進していこうと決意した。いばらき教員応援団の皆様には、いつも背中を押していただき、進むべき道を照らしていただいております。今回も貴重な講演をいただきまして心より感謝申し上げます。すべては子供たちのために尽力いたします。

(小学校 校長)

このような研修の場を設定していただきありがとうございました。グループ別研修では、新たな気づきやこれから職務に取り入れたいと思う内容が多く、大変勉強になりました。自分自身の成長を楽しめるように、そして、ミドルリーダーとして若手を成長へと導けるように今回の研修を生かしていきたいと思います。

(中学校 教務主任)

本人の美德とする「道」には、ゴールはなく理想を求め続けること。白駒先生の言葉は、まさに現在、学校が求められている本質に問いかけているものだと強く共感した。私の中での「道」を再考する素晴らしい機会を与えてくださった「いばらき教員応援団」の皆様に心から感謝を申し上げ、今後も大切な人を笑顔にしたいという志を決して忘れることなく、日々精進してまいります。ありがとうございました。

(高等学校 教頭)

事業計画

○ グループ別研修会

5月24日(火) 新任校長・副校長 6月7日(火) 新任教頭 6月22日(水) 新任教務主任

いばらき教員応援団〈役員一覧〉

【役員】

名誉理事長

高野 英一 タカノフーズ株式会社

代表理事

関 正樹 関彰商事株式会社

副代表理事

幡谷 史朗 茨城トヨタ自動車株式会社

副代表理事

鈴木 勝彦 株式会社鈴木良工務店

監事

増山 英和 増山会計事務所

【理事】

青谷 英将 株式会社坂東太郎

加藤 敏彦 茨城日産自動車株式会社

栗山 武志 栗山電気株式会社

鈴木 達二 鈴縫工業株式会社

沼尻 年正 沼尻産業株式会社

和田 幾久郎 株式会社祐月本店

鬼澤 慎人 株式会社ヤマオコーポレーション

鯨岡 則雄 株式会社大宮自動車学校

坂場 英利 株式会社白英社

内藤 学 水戸ヤクルト販売株式会社

藤田 卓也 株式会社フジタビジネスマシズ

今後も広く県民の皆様のご参加をお願いいたします

〈趣旨に賛同される方へ〉

趣旨に賛同される方は、いばらき教員応援団のホームページから入会申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記の問い合わせ先に郵送でお申し込みください。

いばらき教員応援団 <http://www.ibaraki-tcp.jp>

【問い合わせ先】

茨城県教育庁学校教育部義務教育課内 いばらき教員応援団事務担当

〒310-8588 茨城県水戸市笠原町978-6 TEL.029-301-5226